

(様式6-3)

研修等 報告書

元年 8月 29日

三田市議会議長

厚地弘行 様

私は、研修等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	無会派	代表者	印 小山裕久
		議員名	
参加者氏名	小山裕久		
講演会等研修名	公共施設マネジメントと公会計改革		
研修事項	・ 公共施設マネジメントから始まる本格的行政改革 ・ 指定管理者制度で「稼ぐ施設」の実現		
日 時	元年8月21日14時～ 8月22日12時30分		
場 所	東京都中央区京橋1-7-1戸田ビル		
所 見	別紙に記載		
添付資料	・ 公共施設マネジメントから始まる本格的行政改革 ・ 指定管理者制度で「稼ぐ施設」の実現 ・ 当日の写真21日分22日分 2枚		

添付書類（講演会内容のパンフレット等）

交付対象議員は会派名、議員名を記入してください。（代表者名、参加者氏名は不要）

公共施設マネジメントと公会計改革の研修に参加いたしましたので、以下の所見を述べさせていただきます。

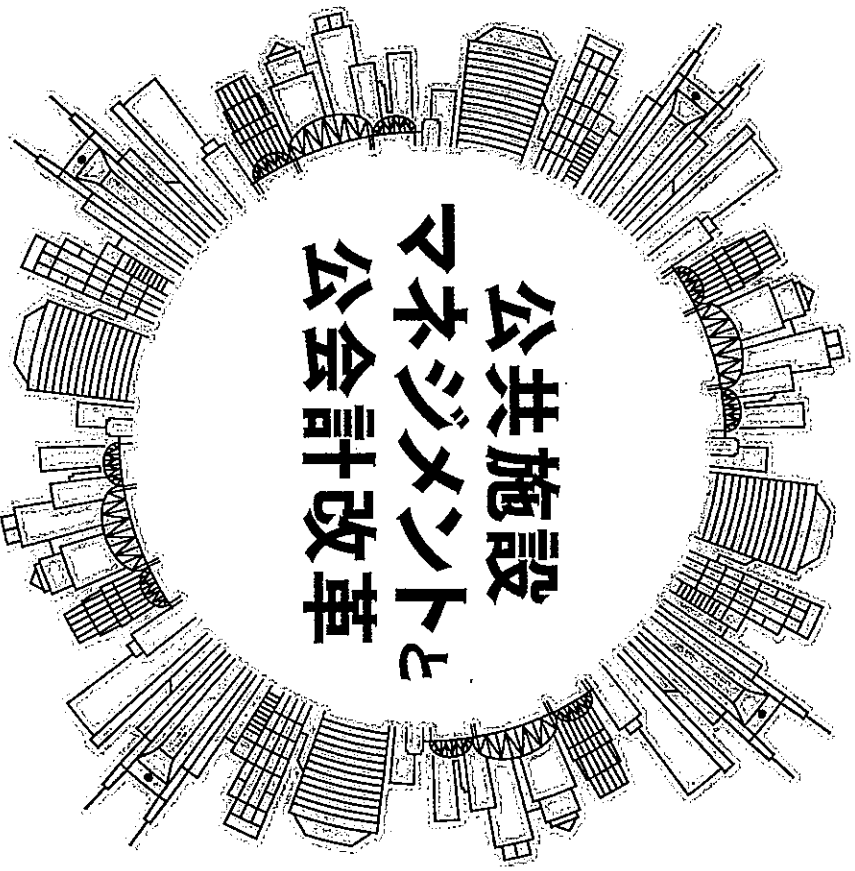
人口減少社会における公共施設の政策として、講師、南学 氏より講義をうけてまいりました。南 氏は東京大学教育学部を卒業後、横浜市役所に就職され、市立大学事務局長、市長室を歴任され、横浜市立大学教授、神奈川大学特任教授を経られ、行政刷新会議の事業仕分け民間評価者として参加された。多くの自治体の経営、マネジメントを研究され他自治体の成功事例やこれからの視点について直接講義を受けられた事は大変有意義であったと感じています。

三田市に限らず、日本が人口増加から減少、経済成長の鈍化し成長から成熟への変化を直視しなければならないなか、拡充から縮充（規模よりも質）縦割りから複合（多様な要望に対応）民間資金・ノウハウの活用（ファイナンス）所有から利用（フルコスト把握と成果設定）すなわち公民連携を進めていく必要があります。しかしながら今までの地方自治体における行政改革が単なる一律削減だけでありました、三田市においても、高度経済成長、安定成長のなかで人口の伸びと税収増により拡充の発想で仕事を行う時代が続き、経済の低迷と人口の少子高齢化に対応した計画実践の発想と経験が圧倒的に不足しているなか、市民の皆様の大変な資産である、公共施設においても国が要請した「総管理計画」の策定は出来てはいるが、具体的に実践するまでに至っていないのが現実でありました。

今回の講義のなかで公共施設においては、施設の役割を再検討し経費削減の手段のための民間委託ではなく、公共資産の最大活用に結びつくことを考え、成長戦略として公民連携を推進し、規制緩和を行い投資を呼び込む制度改革を行う事が大切であるとの事でありました。

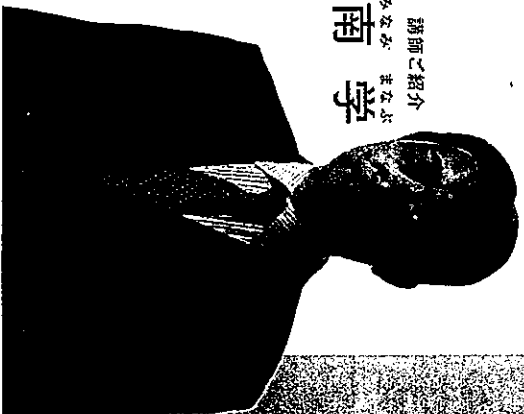
今回の講義をうけ私が議員として、成熟した社会のなかで、地域を基盤とした地域公共団体、市民、学生、民間事業者などの連携が重要になってくると感じ、それぞれの存在と仕組みを理解しながら、連携をコーディネートすることは非常に難しいですが、このような連携を粘り強く追及し、市民の皆様の福祉の増進、幸福度の増進を今まで以上に目的を持ち活動して行こうと思いいになった研修でした。

以上



# 公共施設 マネジメントと 公会計改革

講師ご紹介  
小安が まなぶ  
南学



7/29

in博多

8/21

in東京

10:00~12:30

## 財政問題としての公共施設マネジメント

- ・面積削減の目標設定だけではミスリード
- ・「総論賛成各論反対」は突破できる
- ・財政破綻を回避するためのマネジメント

14:00~16:30

## 公共施設マネジメントから始まる本格的行政改革

- ・公会計改革で、見えた膨大な維持管理費
- ・公共施設は使われていなかった
- ・民間資金・ノウハウの徹底活用

7/30

in博多

8/22

in東京

10:00~12:30

## 指定管理者制度で「稼ぐ施設」の実現

- ・誤解だった「指定管理者制度は全部を委託」
- ・指定管理料ゼロも可能に
- ・間違いだらけのリスク分担と評価

14:00~16:30

## 公会計改革による自治体「経営」

- ・「カネ」はなくとも「資産」で経営
- ・フロコストが見えれば、「改革」が見える
- ・決算重視と成果指標の設定